



平成 19 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 三菱伸銅株式会社
代 表 名 取締役社長 西田 昌弘
(コード番号 5771 東証 第一部)
問合せ先 常務取締役管理本部長 飯沼 昌彦
(TEL 03-3264-1230)

新中期経営計画(2007 - 2009 年度)策定のお知らせ

当社は、このたび 2007 年 4 月スタートの「新中期経営計画(2007 - 2009 年度)『マスキュラー(筋肉質)プラン』」を策定いたしましたので、お知らせ致します。

はじめに

当社グループは 2004 - 2006 年度中期経営計画(以下「前中期計画」)期間において、付加価値の低い一般伸銅品を受注抑制し、端子・電子材等高付加価値伸銅品に注力するなど「事業の選択と集中」の推進による収益基盤の強化を図った結果、その財務数値目標を達成し、安定的に収益を計上できる基盤を整えました。また、2002 年度の復配以降現在まで 4 期配当を継続いたしました。

今般、前中期計画の成果を踏まえて、新中期経営計画(2007 - 2009 年度)「マスキュラー(筋肉質)プラン」(以下「本中期計画」)を策定いたしました。本中期計画は、前中期計画で培った収益体質を一層筋肉質なものとしながら、「選択と集中」から高付加価値伸銅品への経営資源の集中と拡販、すなわち「集中と拡大」へと展開していくことを目指しております。

当社グループは、本中期計画の実施により収益基盤の更なる強化と将来成長に向けて取り組んでまいります。

・2004 - 2006 年度中期経営計画の達成状況

当社グループは、前中期計画において「選択と集中」による戦略製品の拡販と高付加価値品比率の引上げ等の施策を実施、収益基盤の強化に努めてまいりました。その結果、前中期計画の最終年度目標を 1 年前倒しの 2005 年度に達成、2006 年度も目標を上回る業績を計上いたしました。

一方で、コスト改善、新事業・開発の強化等一部の施策は目標達成に至らず、本中期計画で改めて取り組む課題として残されております。

最終年度（2006年度）の目標達成状況は以下のとおりです。

	前中期計画目標値	実績
連結経常利益	26億円	33億円
ROA（総資産経常利益率）	5.4%	6.6%
有利子負債比率	47.9%	41.5%

・新中期経営計画(2007 - 2009年度)「マスキュラープラン」の概要(連結)

本中期計画は、前中期計画で培った収益体質から更に体質改善を図り、技術力、開発力を高めることで一層の筋肉質な収益体質を築くことを目指しております。

当社グループの収益の柱である車載用端子コネクター材および半導体用リードフレーム材は、新興市場の拡大や既存市場の発展などにより今後も更なる需要の拡大が予想される分野であります。本中期計画では、これらを中心とした高付加価値伸銅品への特化と拡大を進めてまいります。そのために、当社グループ内の技術、開発、品質、コスト力の向上および生産効率改善、省力化等の合理化投資に加え、昨年来推進している三菱マテリアル社、三宝伸銅工業社との業務提携による開発促進、生産面での相互補完の実効性を高めることで高付加価値品の供給力の向上を図り、収益基盤を強固なものとして、内外の激しい経営環境の変化に対応してまいります。

さらに、将来的には6年後の販売量を6,500t/月（2006年度平均対比37%増）に引き上げることをターゲットとしております。したがって、本中期計画は、その前半3ヵ年計画と位置付けております。

「選択と集中」から「集中と拡大」へ舵を取る第一ステップである本中期計画の実現に向けて、以下の諸施策の実施に取り組んでまいります。

1. 基本方針

- ・ 開発、品質、コスト力の強化等により更に筋肉質な収益体質の会社を目指すとともに、供給能力の拡大も併せ顧客満足度の向上を図る。
- ・ 人材育成とCSR活動の推進により広くステークホルダーの期待に応えられる企業風土の醸成を図るとともに、社員も将来に希望が持てる会社を目指す。

2. 財務数値目標

2009年度目標は次のとおりです。

	目標値
連結経常利益	44億円
ROA（総資産経常利益率）	8%超
D/Eレシオ	1倍未満

3. 収益計画

(1) 業績計画

(単位：億円)

	2006 年度実績	2009 年度計画
売上高	695	685
営業利益	37	52
経常利益	33	44
純利益	19	27
ROA (経常利益)	6.6%	8.2%

注) 2009 年度計画は銅建値価格 680 千円 / t を前提として算定 (2006 年度銅建値平均価格は 867 千円 / t)。

(2) セグメント別営業利益計画

(単位：億円)

	2006 年度実績	2009 年度計画
伸銅品	42	47
加工品	6	8
蒸着品	1	4
その他	2	1
消去又は全社	14	8
合計	37	52

4. 財務計画

(1) キャッシュ・フロー計画

(単位：億円)

	2007 - 2009 年度計画累計
営業キャッシュ・フロー	152
投資キャッシュ・フロー	114
フリーキャッシュ・フロー	38

(2) 有利子負債残高および D/E レシオ

(単位：億円)

	2006 年度末実績	2009 年度末計画
有利子負債残高	216	195
D/E レシオ	1.29 倍	0.88 倍

5. 本中期計画の戦略

(1) 基本戦略

予想される新興市場における自動車生産の拡大に対応し車載用の端子材、電子材の拡販を図る。

特殊合金 MSP、X251 等の戦略製品に加え、M375、MZC1 等開発品の拡大を図る。

T P M活動の推進により品質、コスト、生産性の向上を図り、高付加価値品領域での競争力の強化を図る。

大型投資を伴わない現有設備の一部改造および有効活用により不足する生産能力の増加を図る。

棚卸資産資産管理システムの構築により棚卸資産を 11,000 t に圧縮(2006 年度末対比 20% 減)する。

開発力強化のため研究要員増員等の開発投資の増強(2006 年度予算対比 50%増)を行い、売上高に占める新規品の比率拡大を図る。

自動車用端子材の開発に積極的に取り組む。

2 層 C C L の技術確立および同基盤技術を活用した新規用途開発を行う。

(2) 事業提携

三菱マテリアル社、三宝伸銅工業社との 3 社間事業提携を推進し、新合金の開発促進、生産設備能力の相互補完(当社生産能力不足分の OEM 委託)等により、条事業の業容の拡大を図る。

国内外の提携先との連携による中国市場戦略の展開を図る。

(3) 子会社事業計画

独自技術を生かした差別化製品の拡販、工程品質改善・高難度品加工技術の確立によるグループ内での内製化等によるコスト競争力の向上等を図り、安定収益基盤の確立と財務体質の強化を図る。

(4) 企業風土の醸成

C S R活動を積極的に推進し、また内部統制システムの整備を行い、企業としての社会的責任を果す。

企業発展の根幹である人材の育成を強化し、技術の伝承を図る。また、社員が共に将来成長に希望を抱く企業風土を築く。

以 上